



- ◆ **世界地図歩き**
プレーリーを訪ねて 帝国書院・2
- ◆ **教科書での指導と評価の実践例**
「主体的に学習に取り組む態度」の
評価のあり方ー歴史的分野を例にー 久保田 重幸・3
- ◆ **社会科学習 トラの巻①**
ワークシートの作り方・使い方
ーその2ー問いの作り方を含めてー 赤坂 寅夫・6
- ◆ **ICTで学びが変わる！**
デジタル教材「タイムトラベル名探偵！」
を活用した実践提案ーより生徒が主語になる
授業を目指してー 石井 稷・9
- ◆ **公民教室 専門家に聞いてみた**
今、知りたい！ 財政を学ぶ
ー地域公共交通(バス)の赤字路線について考えるー 佐藤 主光・12

- ◆ **やってみよう！社会科でAL**
「持続可能な観光について考えよう」
の授業づくりー令和7年度版教科書を用いた豊かな
学びの創造ー 柳澤 彰紀・14
- ◆ **授業研究 地理**
「主体的に学習に取り組む態度」を
育成する単元づくり
ー「日本の諸地域 北海道地方」を事例にー 田代 憲一・16
- ◆ **授業研究 歴史**
世界地図を活用し、大航海時代と日本の
つながりを認識するーヨーロッパ人は近世の日本に
どのような影響を与えたのかー 仙田 健一・20
- ◆ **授業研究 公民**
私たちの生活と経済 消費者と経済
ー一人暮らしにかかるお金を考えようー 寺地 創太郎・24
- ◆ **史料にみる歴史**
描かれた農村風景 福士 雄也・28
- ◆ **社会科ニュース** ー30



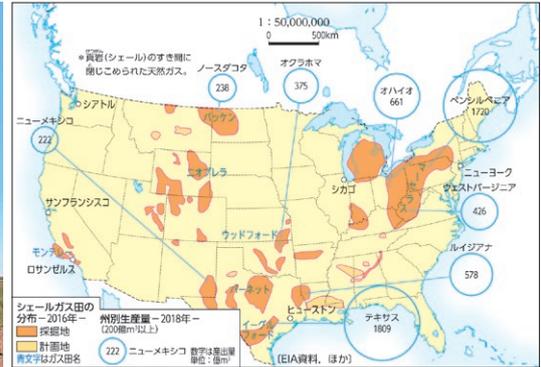
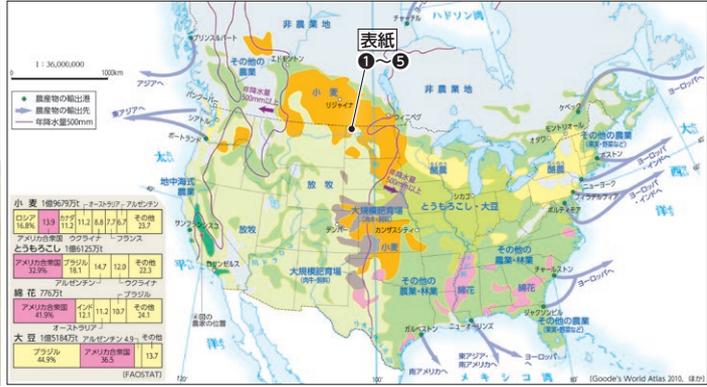


プレーリーを訪ねて

2023年8月、アメリカ合衆国を訪ねた。
『中学校社会科地図』とともに当時の風景を振り返る。



↑トレーラーハウスの内部
↓『中学校社会科地図』p.63①



↑『中学校社会科地図』p.64⑦

■コンバインクルーの暮らし

世界でも有数の国土面積をもち、国内に多様な自然環境を有するアメリカ合衆国は、その自然環境を生かして多量の農産物を生産する世界的な農業国である。特に小麦やとうもろこしといった穀物は、世界の食品品の価格に影響を及ぼすほどである(『中学校社会科地図』(以下、地図帳) p.63①)。今回はその小麦の生産地を訪れ、アメリカ合衆国の企業的農業の特徴ともいえる、コンバインクルーの暮らしぶりを取材した。

今回取材を行った地域は、アメリカ合衆国北部のノースダコタ州の中でもさらに北部、カナダとの国境から1時間程度に位置する小麦畑だった(表紙写真)。取材したコンバインクルーの会社は家族経営で行われ、畑を所有する農場主からの依頼を受けて、収穫を専門に行っていた。総勢11名のスタッフで構成された会社は、小麦や大豆などの収穫時期に合わせて、南から北へと約半年間をかけて移動していた(写真①)。その間スタッフは大型トレーラーを改造したハウスで寝泊まりし(写真②③)、朝早くから、時には深夜近くまで収穫を行っていた。はたからみると大変な仕事と思えたが、スタッフの方々は世

界の人々の食を支えていることを認識し、自分の仕事にとっても誇りをもっていたことが印象的だった。

■小麦畑の中の油田

大規模農業の取材中、畑の中の至る所に原油をくみ上げるポンプや白い貯蔵タンクが点在していることに気がついた(写真④)。広大な畑の中で作業するコンバインよりも、はるかに多くのポンプがひっきりなしに原油をくみ上げている。そこでこの地域が世界のエネルギー供給に大きな影響を及ぼした、シェール革命の中心地の一つであることを思い出した(地図帳p.64⑦)。アメリカ合衆国の原油・天然ガスの生産量が飛躍的に伸び、今や世界最大の生産国となった要因の一つに、この地域で産出されるシェールオイル・シェールガスがある。そのためもっと大規模な工業地帯が広がっているかと思いきや、牧歌的な風景の中で原油の採掘が行われていることに驚いた。そして、この地域で農業に携わる人々がこれらの産物を害と見なすのではなく大地の恵みととらえ、街の入り口の看板にも描いていた(写真⑤)ことは、さまざまな視点から物事を見ることの大切さを感じさせてくれた。



「主体的に学習に取り組む態度」の評価のあり方

—歴史的分野を例に—

三重大学教職大学院 准教授 久保田 重幸

1. はじめに

中学校社会科においては、今年度、現行学習指導要領全面実施4年目を迎え、「社会的な見方・考え方」を働かせる授業づくりや、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に対する理解と実践が広がっている。また、旧学習指導要領下において4観点とされていた評価が3観点へと変更されたことについても一定の理解と実践が広がり、浸透しつつある。

本稿では、こうした現状を踏まえながら、改めて原点に立ち返って、「主体的に学習に取り組む態度」の評価のあり方について見直す機会を提示することで、日常の実践を支援したい。

2. 「主体的・対話的で深い学び」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価

まず、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」ⁱ（以下、「報告」）p.13~14では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが明記されている。さらに、「報告」p.10では、「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意味的な側面を評価すること」が、併せて記されている。

また、「報告」p.13では、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際の留意点として、以下の2点について触れている。

- A 児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるように発問を工夫すること。
- B 自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場を単元や題材などの内容のまとまりの中で設定すること。

これらのことから、「主体的に学習に取り組む態度」の評価においては、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が前提となっており、知識に偏った一斉授業や定期テストによる事後評価のみで、「主体的に学習に取り組む態度」を評価することが難しいことが分かる。AおよびBについての十分な配慮がなされた、問題解決的な学習を綿密に計画し、実現する中で、「主体的に学習に取り組む態度」を評価することが重要であることを確認したい。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際に留意したい3つのポイント

次に、中学校社会科において、「主体的に学習に取り組む態度」を実際に評価する際に留意したい3つのポイントについて述べたい。

まず、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校社会）ⁱⁱ（以下、「参考資料」）p.99では、中学校社会科学習において「主体的に学習に取り組む態度」を育成し、評価を行う際の留意点として、以下の3つのポイントを示している。

- ① 生徒が見通しを立てる機会を設けること
- ② 生徒が学習を振り返る機会を設けること
- ③ 教師や他の生徒による評価を生徒に伝えること

特に、「参考資料」p.100では、単元の導入時に立てた学習の「見通し」が学習を振り返る

際の重要な情報になることや、学習を振り返る機会を単元中に適切に設けることが「自らの学びの過程を捉え、自らの学習を調整する機会」につながることを強調している。このことから、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を充実させることは、問題解決的な学習の指導自体を充実させることと「表裏一体の関係」にあることが分かる。

4. 歴史的分野の学習における「主体的に学習に取り組む態度」の評価の実際

本節では、『社会科 中学生の歴史』p.148～209の「第4章 近代国家の歩みと国際社会」における単元学習シート例（以下、単元シート、図）について検討したい。

本単元では、単元を貫く問い（大テーマ）として、「なぜ、日本は近代化に成功したのか？」を設定した。この問いは、日本の「近代化」の世界史的な評価ⁱⁱⁱを踏まえた、「近代」の本質を考えさせる大きな問いであるとともに、いまだ答えの出ていない重要なテーマであることから選択した。単元全体の配当時間を26時限とし、単元シート作成の際には、前節で紹介した3つのポイントについて配慮した。

まず、①については、単元シート上部に、「単元を貫く問い（大テーマ）に対する自分なりの「予想」を記入する」欄を設けた。併せて、「予想した理由」と「解決のために必要な情報とその入手方法」欄を設けた。生徒は、単元の導入時に「予想」を記入することで、その後の単元学習において、毎時限の学びと「予想」を比較することができ、自分の考えの変化や成長に気付きやすくなるとともに、それ以降の学習の「見通し」や学習改善のヒントを得やすくなる。

また、②については、毎時限の振り返りを避け、「節」ごとの振り返りを基本とした。4～5時限を単位とする節の学習末に単元シートに記入できるよう配慮した。

さらに、節の学習末では、「小テーマ学習を通して分かったこと・難しかったこと」について記入する欄だけでなく、「大テーマの解決に

向けて参考になったこと」について「予想」と比較しながら記入する欄を設けた。生徒は、節の学習末の振り返りを見返しながら、大テーマ「なぜ、日本は近代化に成功したのか？」に対する自分の考えを記入することが可能となる。

加えて、生徒には、単元全体の振り返りの際に、「初めの「予想」と比べながら（変わった、変わらなかった等）記入する」ことを求めている。生徒自身が「予想」と比較しながら記入することで、教師が、生徒の「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」について評価しやすいよう配慮した。

一方、③については、単元学習において「自らの考えを記述したり話し合ったりする場面」を適切に設定し、評価することが重要となる。具体的には、生徒自身が調べまとめる学習や生徒間グループ協議の時間を設ける中で、「教師や他の生徒による評価を伝える」機会を計画的に確保したい。そして、節の学習末の振り返りの際には、こうした学習で得られた、教師評価や相互評価を参考にしながら、「小テーマ学習を通して分かったこと・難しかったこと」を記入するよう生徒に指導したい。

5. おわりに

このように、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について検討してみると、本観点の評価が、「主体的・対話的で深い学び」を含む問題解決的な学習と密接な関係にあることを改めて実感する。「主体的に学習に取り組む態度」の観点を明確化させながら指導することで、おのずと問題解決的な学習の指導自体をブラッシュアップすることができる。今後も、「指導と評価の一体化」の原則のもと、「評価の充実が指導の充実につながる」ような実践が広がっていくことを期待したい。

（注）

- i 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(2019年)
- ii 国立教育政策研究所 教育課程研究センター「[指導と評価の一体化]のための学習評価に関する参考資料(中学校社会)」(2020年)
- iii 坂野潤治・大野健一『明治維新1858-1881』、講談社現代新書、2010年

図 単元学習シート例

2年歴史的分野「第4章 近代国家の歩みと国際社会」

本単元で考えたい「大テーマ」

なぜ、日本は近代化に成功したのか？

()年()組()番・氏名()

1 学習を始める前に、「大テーマ」に対する自分なりの「予想」を記入しましょう。また「予想した理由」と「解決のために必要な情報とその入手方法」について記入しましょう。

予想			
予想した理由		解決のために必要な情報とその入手方法	

2 「節」の終わりに、振り返りを記入しましょう。

日時	時数	節ごとの「小テーマ」	小テーマ学習を通して分かったこと・難しかったこと	大テーマの解決に向けて参考になったこと	この後、明らかにしたいこと
○/○		小テーマは予め書かず、授業者が提示する。 例：「近代化」の進展で、欧米諸国の政治や社会はどのように変化したのだろうか。	学習を通して分かったことや難しかったことを記入させる。	単元当初の「予想」と比較しながら書かせる。	授業者は学習の改善に向けた指導助言を行う。
○/○					
○/○					
○/○					
○/○					

3 「単元全体」の振り返りを記入しましょう。

(1) 大テーマ「なぜ、日本は近代化に成功したのか？」に対する自分の考えを記入しましょう。記入する際には、初めの「予想」と比べながら（変わった、変わらなかった等）記入しましょう。また、あなたが、そう考えた理由についても記入しましょう。

(2) 本単元の学習を終えて、次の単元「二度の世界大戦と日本」（第5章）でさらに学びたいことについて記入しましょう。

著者紹介 久保田重幸 くぼた・しげゆき
 1966年滋賀県生まれ。滋賀大学大学院教育学研究科修士課程修了。修士（教育学）。専攻は、社会科教育、学校改善、教育史。

帝国書院のWebサイトに、上記の単元学習シート例を掲載いたします。





ワークシートの作り方・使い方—その2—

～問いの作り方を含めて～

元全国中学校社会科教育研究会会長 赤坂 寅夫



【質問】ワークシートにおいて問いをどのように設定し、どのようにワークシートに落とし込むかを教えてください。

その一 問いの作り方

現行学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、1 単位時間の授業においてよりも、単元など内容や時間のまとまりを見通した指導計画や評価計画が求められています。そのために単元の目標の達成に向けた「単元を貫く問い」を設定し、指導内容のつながり・構造から単元をどう構成するか、どのような学習活動を位置付け、どう評価するかという指導計画・評価計画の構想が重要であることを「地理学習 トラの巻②『問いのつくり方』」（当誌2020年度前期号）で示しました。また、前回の「社会科学習 トラの巻⑩『ワークシートの作り方・使い方』」においては、学習進度とレベルに合わせたワークシートを作り、スパイラルな成長を目指すことをポイントとして示しました。この学習進度とレベルに合わせたスパイラルな成長が単元の指導計画すなわち単元の構想に当たります。それでは単元の構想をどう考えるか。単元の構想からワークシートの作成へのステップを下記のア～クに示します。

- ア 授業者自身が考える単元の目標を考える
- イ アをもとに「単元を貫く問い」を考える
- ウ 目標の達成のための学習活動を構想する
- エ 生徒の問題意識を喚起する教材を選ぶ
- オ 生徒目線の「単元を貫く問い」を考える*
- カ 「単元を貫く問い」を解決するための1 単位時間の授業における問いと学習活動を構想する

※本誌p.16～19「授業研究地理」での問いの事例も参照ください。

- キ 1 単位時間の授業ごとのワークシートを作成する
- ク 1 単位時間の授業ごとのまとめ・振り返りを記録するワークシートを作成する

前述した学習進度とレベルに合わせたワークシートの作成に関して、「単元を貫く問い」と「授業時間ごとの問い」の関係について考えなければなりません。これについても「地理学習 トラの巻②『問いのつくり方』」（当誌2020年度前期号）で以下の問いの種類について解説していますので、参照ください。

- ・ 事実的知識を問う問い
- ・ 説明的知識を求める問い
- ・ 記述的知識を求める問い
- ・ 価値的知識を求める問い

「単元を貫く問い」に迫るための学習活動をどう展開するのか、そのための「授業時間ごとの問い」をどう設定し、ワークシートに落とし込み、主体的な活動をどう行うかが重要です。



ポイント①

「単元を貫く問い」に迫るために、単元を構造的に構想する「授業時間ごとの問い」をワークシートに落とし込む

その二 問いの展開とワークシート

では、実際にどのように問いを展開しワークシートに落とし込めばよいのか、ここでは「九州地方」の学習での事例を紹介します。生徒の興味・関心や学習レディネスを把握した上で、授業者が考える単元の目標に迫る「単元を貫く問い」や「授業時間ごとの問い」を設定するのが基本ですが、ここでは教科書に設定された問いを基に解説します。『社会科 中学生の地理』（以下、教科書）p.174では「単元を貫く問い」

【単元を貫く問い】	
第1節の問い p.171～183	九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。 教科書p.174
【第1時の問い】 一九州地方の自然環境一	
学習課題	九州地方では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。 教科書p.174
【第2時の問い】 一火山と共にある九州の人々の生活一	
学習課題	火山は人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。 教科書p.176
【第3時の問い】 一自然を生かした九州地方の農業一	
学習課題	火山活動の影響を受けた土地や温暖な気候を生かして、九州地方ではどのような農業が行われているのだろうか。 教科書p.178
【第4時の問い】 一都市や産業の発展と自然環境一	
学習課題	アジアの国々に近いということが、都市や地域の産業の発展にどのような影響を与えているのだろうか。 教科書p.180

として「九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。」と設定されています。また、見開き2ページに1単位時間ごとの「学習課題」が示されています。

帝国書院の教科書では、上記のように「九州地方」の学習は「自然環境を中核とした考察の仕方」を基にして、地形や気候などの自然環境が人々の生活・文化や産業などとの深い関わりがあること、自然災害に応じた防災対策が地域の課題となっていることを中心に学習する単元としています。教科書p.178～179を活用した第3時の「自然を生かした九州地方の農業」を事例として展開してみましょう。

① 事実的知識を問う問いと記述的知識を求める問い

ワークシートを活用した学習活動に慣れていない初歩の段階では、地理的用語の定着のために教科書本文を読み取らせ、いわゆる穴埋め式で語句を記入させる形式も考えられます。

しかし、地理的用語の理解・認識を深めるためには単なる語句の記入ではなく、教科書の写真や地図、グラフから地理的事象を読み取らせる問いと用語の概念を理解させる問いが必要です。

◆九州地方の南部にはどのような地形が広がっているか。教科書p.178①「シラス台地の斜面」の写真と②「シラスの分布」の地図から読み取りなさい（事実的知識を問う問い）。
→古い火山の噴出物が厚く積もって出来た台地（シラス台地）が広がっている。

◆教科書p.179⑥「筑紫平野での小麦の収穫」と「田植えされた水田」の2枚の写真を見て、筑紫平野ではどのような農業が行われているか、記述しなさい（記述的知識を求める問い）。
→冬でも温暖な気候を利用し、春から秋の稲作が終わった後の水田で小麦や大麦など米以外の作物を栽培する二毛作が行われている。

② 説明的知識を求める問い

上記の①だけでは地理的な見方・考え方を働かせる学習にはなりません。社会科学習の本来の姿は見方・考え方を働かせて地理的事象の原因、要因、理由や他の事象との関連を考察する問いが必要です。例えば次のような問いです。

◆九州地方の南部ではさつまいもや茶などの栽培と畜産が盛んであるが、それはなぜか。地図帳や教科書の資料・本文から変化に着目して記述しなさい。
→水持ちが悪くやせた土地であったシラス台地では古くからさつまいもの栽培が行われ、やせた土地の肥料として糞を活用するため牛や豚が飼われていた。戦後、用水路が整備され、水はけのよい土地に適した茶の栽培、わが国の食文化の変化による豚や鶏、肉牛の生産が盛んになった。

③ 説明的知識を深める問い

②では教科書内にある地図や資料を活用した問いでしたが、教科書以外からの地図や資料を

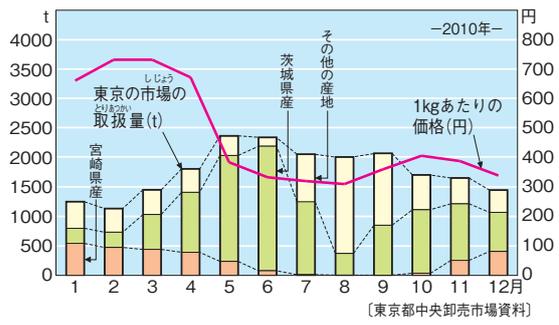


図 東京へ出荷されるピーマンの量と価格（帝国書院『新・日本のすがた①九州地方』）

活用して、②の問いに関連させてより深い説明的知識を求める問いのレベルを向上させる工夫が必要です。例えば九州地方の農業の特色を見いだす学習において、ピーマンの月別出荷量と価格の変化を示したグラフ（図）を活用して次のような問いが考えられます。

◆九州地方南部において促成栽培が盛んな理由をグラフから読み取り説明しなさい。
→冬の温暖な気候を利用して、他地域では出荷が少なく価格が高くなる時期に出荷することで収益を高めている。

この問いでは促成栽培のような冬でも温暖な気候を利用し、グラフに示された価格の変動から栽培が少ない冬の時期に出荷することで利益が得られるという地理的事象と経済活動との関わりを読み取ることを求めています。

このように1時間の授業の中で、1枚のワークシートに①から③への問いのステップを踏む工夫をすることにより、地理的な見方・考え方を働かせる活動ができます。

ポイント②
 ワークシートの中で「問い」のステップを工夫し、見方・考え方を働かせる

その三 単元の振り返りとワークシート

現行学習指導要領では「主体的に学習に取り組む態度」の評価が求められ、そのために1時間の授業ごとではなく、長いスパンでの生徒自身の粘り強い学習や自己調整力を評価することとされています。長いスパンとは1年間あるいは学期ごとが考えられますが、いくつかの単元の積み重ねであり、その意味で1つの単元において振り返りをすることが求められています。そのため時間ごとのワークシートのほかに、単元の学習を振り返るワークシートが必要です。

例えば本事例の九州地方の学習においては、各時の授業時間における問いに対する答えを各

時の最後の学習活動として記入する時間を設定し、振り返り用のワークシートに記入します。そして単元の最後に各時の学習を振り返り、「単元を貫く問い」に対する答えを記入します。

【単元を貫く問い】

「九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。」



【単元を貫く問い】に対する答えの例

梅雨や台風による災害や九州南部での火山灰の影響は、人々の生活をおびやかす自然環境である一方で、火山による温泉や景観で観光客が多く訪れるという恵みもある。シラス台地での畜産、温暖な気候を活用した二毛作や促成栽培が盛んであるとともに、大陸に近いことが工業の発展やアジアの国々との交流に影響を与えている。

各時の答えの内容及び「単元を貫く問い」に対する答えの内容から、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価します。上記の例は、九州地方の地形や気候の具体的事象が人々の生活や産業にどのような影響を与えているかを、地形・気候や産業の特色などについて具体例を示しながら自然環境と人々の生活・産業との関わりを簡潔に記述しており、「思考・判断・表現」の評価はA評価と判断できるでしょう。

ワークシートに記入された内容から「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価するためには、長いスパンでの学習活動が必要で、すべての単元で見取る必要はありません。1年・2年の学習において、2～3単元に絞って長いスパンで丁寧に活動し、じっくり振り返る時間と内容を工夫することが大切です。そのための問いと学習活動の工夫をしたワークシートが必要です。

ポイント③
 毎時間の振り返りから単元を貫く問いに対する答えを導くワークシートの工夫をする

デジタル教材「タイムトラベル名探偵！」を 活用した実践提案

ーより生徒が主語になる授業を目指してー

神奈川県 川崎市立川崎高等学校附属中学校 教諭 石井 穰

1 「令和の日本型学校教育」におけるデジタル教科書・教材の普及促進について

令和3年1月26日の中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が出されてから3年が経過した。学校現場では、学習指導要領や本答申を踏まえ、ICT、中でも特にクラウドを活用した複線型の授業をはじめとしたさまざまな実践が行われ、現在「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した授業の在り方が模索されている。

また、この答申では、ICTの重要性とともに、ICT環境整備の在り方として、デジタル教科書・教材等の普及促進が示されている。近年、特別に支援が必要な生徒、外国籍で日本語指導が必要な生徒、不登校や不登校傾向の生徒など、以前に増して子どものさらなる多様化がみられる。そのような状況で、全ての生徒一人一人の興味・関心に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供していくために、紙面での教科書に加え、デジタル教科書・教材など、さまざまな学習教材についてさらなる検討・導入を図っていくことが教員に求められていると感じる。

生徒の多くは、デジタル教材が大好きである。生徒の興味のあるものを、目的をもって授業で導入することができるのであれば、生徒にとっても教員にとっても有益である。その思いから今回、「タイムトラベル名探偵！」を紹介したい。

2 「タイムトラベル名探偵！」とは？

VR（バーチャル・リアリティ）技術がゲーム、ビジネスをはじめとしたさまざまな分野で利用され、現在、教育分野におけるメタバースの応用が進められている。また、「子供を主語にする学校教育」（中教審答申）が求められる現状を踏まえて、学習者視点を重視して開発されたのが「タイムトラベル名探偵！」である。このコンテンツは、来春発売予定の令和7年度版デジタル教科書・教材『社会科 中学生の歴史』（以下、デジタル教科書）に収録予定である（帝国書院ウェブサイトにて体験版を公開中）。令和7年度版『社会科 中学生の歴史』（以下、教科書）の、時代を大観する上で大きな強み・特徴である「タイムトラベル」を端末内で立体表示させることで、生徒が過去の歴史に対して、没入感をもって楽しく学ぶことができるようになっている。また、授業での活用を考慮して、教科書に対応するよう、イラストをいくつかのエリアに分割している（図1）ことが特徴である。体験版では「タイムトラベル⑧ 江戸時代

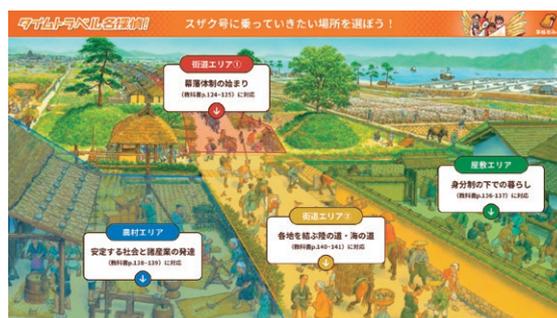


図1 帝国書院ウェブサイト 令和7年度版 指導者用 学習者用デジタル教科書・教材 体験版 「タイムトラベル名探偵！」 エリア選択画面

を眺めてみよう」の「農村エリア」の体験が可能である。仮想空間である江戸時代の農村に行き、その時代の人々へのインタビューから情報を得、それを推理してミッションに答えることで時代の特色を学ぶ内容となっている。

3 「タイムトラベル名探偵！～江戸時代を眺めてみよう～」を活用した授業実践例

(1) 1時間の授業における「展開」「整理」の段階での活用例

流れ	生徒の活動
導入	・本時の課題「江戸時代の国内産業は、どのように発達していったのだろうか」を確認する。
展開	・「タイムトラベル名探偵！」を使って、本時の課題に対する情報収集を行う。
整理	・「手帳機能『推理する』」を使用して、本時の課題に関するクイズに答える。 ・本時の課題についての考えをワークシート等に記入する。

「タイムトラベル名探偵！」は1時間の授業(1見開き)に対応したエリア分けがされているため、1時間の授業構成に組み込みやすい。例えば上の表のような授業では、本時の課題に対する情報収集の手段として位置づけることが想定される。学習リソースを学習者自身が選択する「個別最適な学び」の観点から考えると、紙面の教科書やデジタル教科書、その他資料との併用が望ましいと考えられるが、実際に学校現場では、文章から必要な情報を探し出すことが苦手な生徒もいるのが現実である。そのような生徒にとっては、**立体表示の中で学習者自身**



図2 同前 エリア内巡回画面



図3 同前 登場人物へのインタビュー画面

が主人公となって操作し(図2)、登場人物にインタビューをする(図3)という情報収集の方法は、学習意欲を大いに喚起するものとなる。また、年代的に大きな隔たりがあるために、自分事としてとらえにくい部分がある歴史的分野の学習において、**歴史への没入感をもって学習に臨めることは、主体的な学びを進める大きな一助となる**と考えられる。

また、登場人物に話しかける際の質問項目は右上から選択する形式になっている。**これらの質問(図4)は、それぞれ動作(ここでは農作業)・政治・経済・文化の視点からのものであり、複数の登場人物へのインタビューを通して、多面的・多角的な思考の育成が期待できる。**



図4 同前 質問項目



図5 同前 手帳機能「推理する」画面

1時間の授業における整理の段階では、「手帳機能『推理する』」(図5)の活用が有効である。体験版では、本時の課題解決へとつながるクイズに、インタビューを通じて得た知識をも

とに三択で答える仕様になっている。クイズはそれぞれ「幕府大名の視点から」、「外国との関わりからの視点から」考える指定があり、クイズに答えることを通して、多面的・多角的に課題について考える機会となる。

以上のように、「タイムトラベル名探偵！」の活用は、1時間の授業を通してだけでも、歴史的な個々の事象の学習に加え、多面的・多角的な思考の育成も期待できると考えられる。

(2) 節(もしくは章)まとめの授業における「展開」の段階での活用例

流れ	生徒の活動
導入	・節(章)の問いを確認する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・「手帳機能『手帳一覧』」を使用して、節(章)の問いに関わるキーワードを確認する。 ・「学習ツール(まとめも)」を使用してテンプレート上にキーワードを整理し、得た知識を構造化する。 ・他者の「まとめも」を参照し合い、協働的な学習を行う。
整理	・節(章)の問いに対する自分の考えを文章で表現する。

「タイムトラベル名探偵！」の各エリアは、1時間の授業(体験版で降り立つことができる農村エリアは教科書p.138~139)に対応したものはあるが、そこで得られる知識はこの1見開きを超えて、節や章の範囲まで広がっている。そのため、節や章のまとめを行う際にも手助けになると考える。



図6 同前「手帳機能『手帳一覧』」政治・社会キーワード

例えば、「手帳機能『手帳一覧』」で政治・経済・文化の3つの面に分類されたキーワード(図6)を、デジタル教科書に搭載の学習ツール「ま

まとめ～社会科思考ツール～」上でカード化し、テンプレート(思考ツール)上で思考を構造化する(図7)。テンプレートは年表やYチャート、その他(白紙もある)いくつかのものから、生徒自身が自分に、そして課題に合ったものを選択できる形式になっている。まとめの時間に他者の「まとめも」を参照し合う中で協働的で、対話的な学びに近づくことができると考えられる。

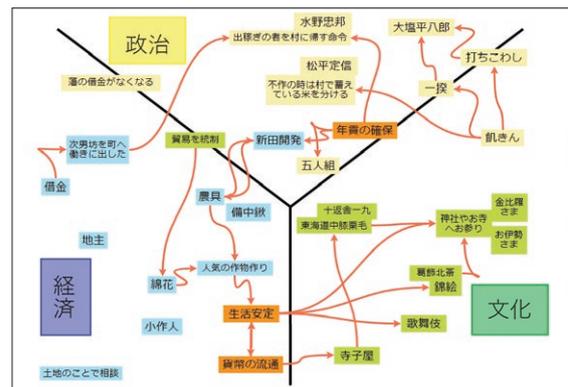


図7 学習ツール「まとめも」のテンプレート(Yチャート)で思考を構造化する例

以上のように、「タイムトラベル名探偵！」は工夫次第でさまざまな場面で使用することができる点で、帝国書院の教科書の強みである「タイムトラベル」をさらにアップデートしたコンテンツだといえる。

4 おわりに

私は初任者のころ、「授業の7割は教材研究で決まる」という話を聞いた。現在の教育観からすると、生徒が主語となり、生徒の学びに教員がその都度寄り添っていくことが重要である。しかし、教材研究の重要さは依然変わらない(むしろより重要さを増している)。時間をかけて準備した教材を提示したときの、生徒の興味にあふれた明るい表情は、教員としてやりがいを感じる瞬間である。これからも生徒のさまざまな学びを喚起する教材を模索していきたい。

「タイムトラベル名探偵！」体験版は、指導者用学習者用 デジタル教科書・教材体験版の注目コンテンツよりご覧いただけます。右のQRコードからアクセスできます。



専門家に
聞いてみた

財政を学ぶ

—地域公共交通(バス)の赤字路線について考える—



1 はじめに

国民一人一人にとって身近な公共サービスを提供するのが財政の重要な役割の一つです。また、その財源は消費税を含めて国民から徴収する税金です。公共サービスに対してどのように税金を使うべきなのかを「自分事」として学んでほしいと思います。今回はその公共サービスの例として、令和3年度版『社会科 中学生の公民』（以下、教科書）p.163～164「アクティブ公民 赤字バス路線に税金を使うべきか？ ～効率、公正から考える～」を活用した財政の授業実践について、具体的に提案していきます。

地域の足ともいえるバス事業の経営状況が悪化しています。国土交通省によるとコロナ禍以前より赤字となっている一般路線バス事業者が増え、地方では人口減少によってバス利用者は減少し続けています。このため廃止されるバス路線も増えています。コロナ禍が収束して、経済が回復基調になる中でも、この状況に大きな改善は見込めません。

2 路線バスのオプション価値

利用者の数が少なくなっているからバス路線は廃止しても構わないという見方もあるでしょう。しかし、公共交通には経済学でいう「オプション価値」というものがあります。今は使っていないけれども将来的に必要なかもしれない、その時の便益を考えるのがオプション価値です。

例えば、災害を考えてみましょう。周辺にマンションや商業施設が立ち並ぶ街の中に大きな公園があったりします。一見すると公園を無くしてマンション等を建てたほうが利益になるように思われます。しかし、こうした公園は大規模な地震が起きたときに避難する場所として利用できます。住宅が壊れて長く避難生活を強いられる人々のた

めの仮設住宅を設置する敷地にもなるでしょう。目先の利益にとらわれて公園をつぶしてしまっはいざというときに困ります。

元気で若い人たちは自家用車で移動できるため、バスに乗る機会はあまりないかもしれません。しかし、歳をとってから運転が難しくなり車を手放すことになれば、移動の足が必要になります。そのとき路線バスがなければ生活が不便になってしまいます。今は使わないから将来も要らないというわけではないのです。将来に移動の選択肢（オプション）をどのように残しておくかという視点をもって地域の公共交通の在り方を考えることが求められます。

3 ただ飯（フリーランチ）はない

とはいえ、赤字のバス路線のすべてをそのままにしてよいわけではありません。バス会社が民間の場合、赤字が続けば倒産するリスクがあります。赤字の路線に限らず、すべてのバス路線が無くなってしまうと移動手段が完全に失われる人々も生じます。公営のバス会社であれば、経営する地方自治体から赤字を埋めるよう補助金が出ているケースが多いです。しかし、その補助金の原資は多くの場合、住民税や固定資産税など地域住民が支払う税金です。また、公共交通を含む公共サービスを提供するにはコストがかかります。そのコストをサービスの利用者が全額を払っているわけではないのでサービス自体が安く思われるかもしれませんが、利用者の負担がなければ費用はないようにも感じられます。しかし、経済学では「ただ飯（フリーランチ）」はないとされます。利用者が負担しないコストは結局、ほかの誰かの負担になっているのです。先に述べたオプション価値を含めて赤字路線を維持することからの便益とそのため費用の双方を見据えたうえでどうするかを判断する必要があります。

- 財政：財務省 (<https://www.mof.go.jp/zaisei/>)
- 公共交通政策：国土交通省 (https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000211.html)
- 都市：国土交通省 (https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_tk1_000016.html)



財政：財務省



公共交通政策：国土交通省



都市：国土交通省

一橋大学 経済学研究科 教授 ^{もとひろ} 佐藤 主光 先生

専門は財政学、主な著書に『地方税改革の経済学』（第52回エコノミスト賞受賞）、『日本の財政—破綻回避への5つの提言』など。財務省財政制度等審議会、内閣府規制改革推進会議、政府税制調査会などの委員・特別委員を歴任。2019年日本経済学会石川賞受賞、2024年春の紫綬褒章受章



4 創意工夫を引き出す

仮に税金を使って赤字路線を守るにしても、赤字を垂れ流したままにしておくことは望ましくありません。同じ赤字でも「やむを得ない」赤字と「工夫次第で解消する」赤字があるのです。自治体が赤字を全額埋め合わせてくれるのであれば、バスを運行する事業者はあえて経営状況の改善に向けて工夫するインセンティブ（誘因）を持たないでしょう。赤字は放置されるばかりか、ますます増えるかもしれません。地域の足を守るという理念は正しくても、やり方を間違えると自治体の税金のむだづかいにもなりかねないのです。例えば、古くなったバスを買い替えるときに大型バスから小型バスに切り替える、バスの経路や運行時間を見直すことで利便性を高めて利用者を増やす、観光地があれば観光客のバス利用を促すといった**経営の工夫**があってよいわけです。創意工夫の成果が出て利用が増えるなどしたら「ボーナス」として補助金を上乘せしたりするのも一案です。

5 街づくりと一体化

バスの利用者は自宅からどこかへの移動を目的としています。高齢者であれば病院かもしれません。買い物や通勤・通学でバスを使う住民もいるでしょう。病院や学校のような公共施設、買い物をする商業施設、通勤先のオフィスなどがどこに立地しているかでバスの路線網も変わってきます。公共施設や商業施設・オフィスが地域内でバラバラになっていると、それに応じて路線網もバラバラになってしまいます。

人口が減少しても地域社会を維持できるよう、コンパクトシティの取り組みが進められています。公共交通もそれと無関係ではありません。コンパクトシティの成功例として挙げられる富山市は、

LRT（ライトレール）の導入と合わせてこの取り組みを推進しています。今後は公共施設を含む経済活動の拠点を中心市街地に集約化する一方、離れた場所に住む住民との間をバスなどの公共交通でつなぐことがあってよいでしょう。いずれにせよ、**街づくりと公共交通は一体的に考えていく必要**がありそうです。

6 新しいやり方を考える

地方の路線バスの問題は経営の赤字だけではありません。バスの運転手のなり手も不足しているのです。そのため人手の要らない**自動運転**への期待が高まっています。とはいえ安全性にはまだ課題があるとされますので、本格的な導入はもう少し先になるかもしれません。ほかにも公共交通の運行をより効率的にする方法としては利用者の予約に応じた運行、つまりオンデマンド化があります。複数の利用者が行きたい場所と時間を予約するとAIなどが彼らをつなげる最適な経路を計算して、小型バスのような車両を配車します。利用者の少ない時間帯や経路をバスなどがむだに走ることが無くなるわけです。人手不足へのもう一つの対応は**ライドシェア**です。ふだんは別の仕事をしている人が空いた時間を使って、その時間帯に移動したい人を乗せたりするのがライドシェアです。一般ドライバーと移動したい人を専用のアプリでもってつなげます。国の規制が見直され、2024年4月からは、ライドシェアが部分的に解禁されました。こうした従来とは異なる方法で地域の足を支えることが今後ますます重要になってくるでしょう。

市長の立場から赤字バス路線について検討するという教科書のこの課題は、バス事業を自分事としてとらえ、効率と公正、さらに経済学、社会情勢の観点を含めて広く考えていくことにより、財政への理解を深めていくでしょう。

「持続可能な観光について考えよう」の授業づくり

—令和7年度版教科書を用いた豊かな学びの創造—

同志社大学 教育支援機構 免許資格課程センター 教授 柳澤 彰紀

1 はじめに

令和5年、人口約140万の京都市に5000万を超える観光客が訪れました^{*1}。宿泊客数は、延べ人数で日本人及び外国人ともに約1200万人でした^{*1}。京都は、住民の生活の質や訪問者の体験の質にマイナスの影響が出るオーバーツーリズムの問題に直面しています。この問題は京都以外の場所でも発生していますし、生徒は将来、観光客として、あるいは観光客を受け入れる住民側として、この問題に向き合うかもしれませんで、今回の学習課題に取り組む教育的意義は、とても大きいものがあるといえます。

2 授業の構成・展開

1【観光客の立場】京都の魅力を見つけよう

〈学習活動①〉 令和7年度版『中学校社会科地図図』（以下、地図帳）p.113~114京都市中心部の地図から各自行ってみたい所を三つ程度選びます。クラスで集計をし、ランキングをして

もよいでしょう。次に、選んだ場所を巡る行程を考えます。地図帳の縮尺から距離感が分かれば、移動手段が考えやすくなります。地図帳には、地下鉄を含む鉄道が書いてありますので、この学習で生徒は、他の大都市に比べて鉄道が意外と少ないことに気付きます。

〈学習活動②〉 観光客は、衣食住においても、日常生活では味わえない体験を楽しんでいます。そこで、「教科書から、衣食住にかかわる観光体験を探そう」と問いかけます。着物を着ての京都観光（令和7年度版『社会科 中学生の地理』（以下、教科書）p.201⁵）は「衣」、京都らしいお菓子を味わうこと（p.214¹¹）は「食」、町家スタイルのホテルでの宿泊（p.215⁴）は「住」での京都の魅力です。また、「食」には、お茶や京漬物などのお土産の購入も関係しています。

2【住民の立場】京都に暮らす人々の努力を調べよう

〈学習活動③〉 教科書p.215³にある景観政策の目的は何であるのか、本時までの授業を振り返り、的確な言葉で表します。最も端的な言葉は「古都の歴史と伝統を後世に受け継いでいく

ため」（p.209本文）ですが、既習事項と関連付けて思考を促すことは、学びの連続性の確保につながります。

〈学習活動④〉 教科書「京都に暮らす人の話①」（p.215）から、町家の維持の難しさに生徒は気付きます。次に、教科書p.214のQRコードからNHK for School「景観保全の取り組み・京町家」（約2分）を視聴し、住民が共同して景観の保全に努めてきたことが京都のまちづくりの特徴であることを把握します。

〈学習活動⑤〉 教科書「京都に暮らす人の話②」（p.215）にある、「う



図1 令和7年度版『社会科 中学生の地理』p.214~215



図2 令和7年度版『社会科 中学生の地理』p.215写真5に吹き出しを付けた例

れしさ半分、苦勞が半分」の内容を具体的に書き出す中で、観光客を受け入れる住民の率直な思いを浮かび上がらせておきます。

3 複数の立場から持続可能な観光に向けた取り組みを考えよう

〈学習活動⑥〉 まず、次の統計資料の読み取りをします。

【京都市民の意識調査（令和5年）】^{*2}

- ・観光客らが市にもたらす影響のうち、次のことで「迷惑をする人がいる」と思う人の割合
 - 観光地やその周辺の混雑…90.8%
 - 路線バス等の公共交通機関の混雑…90.2%
 - 観光客のマナー違反…86.8%

【観光客への京都観光に係る調査（令和5年）】^{*1}

- ・日本人、外国人とともに、残念度の1位は「人が多い・混雑」
- ・「地域の生活を守りながら観光したい」とする日本人は56.7%、外国人は60.8%

次に、学習活動①からの学びを総合させ、教科書p.2155に、住民、日本人観光客、外国人観光客がいるとして吹き出しを付け（図2）、それぞれの思いを考え、記入します。

〈学習活動⑦〉 学習活動⑥を受けて、混雑の解消に焦点を当てた学習を行います。

生徒は自由な発想で取り組みを考え、他者に説明しますが、京都という地域の特徴を踏まえているかという視点で対話的に学習を進めます。例えば、地下鉄の延伸というアイデアには、「地中に遺跡の多い京都では時間や経費の面で条件が厳しくはないか」と問いかけます。

なお、表は、京都市観光協会の主な取り組みを筆者がまとめたものです。

〈学習活動⑧〉 多くの住民は、観光客のマナー違反を京都観光のマイナス面と考えています。舞妓への付きまとい、私道への進入など、

混雑解消の観点	具体的な主な取り組み
手ぶら観光の推進	京都駅から宿泊施設まで荷物を運ぶサービス 臨時の手荷物預かり所を設置
混雑可視化	人気観光地のライブカメラ映像を配信 人気観光地の時間帯別・天気別の混雑予想を配信
場所の分散化	ガイドブックにはない隠れた魅力の情報を発信 新たな観光コンテンツを作る活動を支援
時間の分散化	魅力的な朝と夜の観光情報を発信 ライトアップ事業を行う取り組みを支援

表 京都市観光協会の混雑解消の主な取り組み（令和6年現在、筆者作成）
出典：京都市観光協会<https://www.kyokanko.or.jp/project/sustainable/>

メディアが取り上げる内容から、それは外国人のマナー違反だと推察できます。授業では、観光による経済効果と住民の生活を守りながらの観光を考える外国人が日本人と同程度いることから、外国人観光客の抑制は現実的ではないことを理解できるようにします。そのうえで、例えば、表の具体的取り組みの効果を議論します。

「限られた補助金を何に使うか」といった視点が出てくれば、希少性という見方・考え方を働かせる経済学習の基盤につながります。

〈学習活動⑨〉 教科書p.215の最下段に書いてある振り返りを行い、学習の成果を実感できるようにします。

3 おわりに

この授業では、教科書の資料を十分に使いこなし、場所（京都はどのような場所か）と地域の特徴（京都の実情を踏まえ、オーバーツーリズム問題にどう取り組むべきか）という地理的な見方・考え方を働かせて、生徒を深い学びに誘います。しかしながら、学習課題の解決は容易ではなく、京都を含む近畿圏として混雑緩和を考える発想が今後必要なのかもしれません。

また、本時の内容は、京都の魅力を生み出す観光産業の担い手、町家の改修を行う技術者、行政職などさまざまな人々の存在を前提としています。授業中にこれらの立場の人の持続可能な観光に向けた取り組みについて意見が出れば、ぜひとも取り上げたいものです。

〈注〉

- ※1 京都市産業観光局「京都観光総合調査 令和5（2023）年1月～12月」https://www.kyokanko.or.jp/wp/wp-content/uploads/kyoto_tourism_stat_2023.pdf
- ※2 京都市産業観光局観光MICE推進室「令和5年 京都観光に関する市民意識調査」<https://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/cmsfiles/contents/0000323/323844/sassi.pdf>



「主体的に学習に取り組む態度」を育成する単元づくり

—「日本の諸地域 北海道地方」を事例に—

東京都 八王子市立上柚木中学校 主任教諭 田代 憲一

1 はじめに

現行の学習指導要領では、学習評価の観点として①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度の3つが示されている。この中で、特に「主体的に学習に取り組む態度」の育成や評価が難しいと感じている教員が多いのではないかと考えた。

そこで、本稿では「主体的に学習に取り組む態度」の育成に着目した単元づくりとその評価方法を紹介する。取り上げる単元は、地理的分野の「北海道地方」である。本校では、「日本の諸地域」の学習は、地域的特色を生徒がイメージしやすい「北海道地方」から学習を始めている。

「主体的に学習に取り組む態度」は、「粘り強く学習に取り組む」と「自ら学習を調整する」の2つの側面からなるものである。特に「自ら学習を調整する」ことは、教育心理学における「自己調整学習」の研究を踏まえている。

「自己調整学習」は、「動機付け、行動、メタ認知によって、自分自身の学習過程に能動的に関与している学習」と定義され、予見（学習目標や計画を立てる段階）、遂行（課題解決を行う段階）、内省（自己評価を行う段階）という3段階の学習サイクルが連続することで学びが深まるとされている。「自己調整学習」では、学習動機を持ち続け、絶えず自分の学習状態を振り返り、目標を再設定したり、学び方を修正したりしながら継続的に学習に取り組むことが重要である。

単元をつくる際に、この「自己調整学習」の考え方を組み込むことで、単元を通して生徒の「主体的に学習に取り組む態度」を育成して評

価することができるのではないかと考えた。本単元では、ワークシートと授業構成の工夫を行うことで、生徒の「主体的に学習に取り組む態度」の育成と評価を試みた。

2 「主体的に学習に取り組む態度」を育成するワークシートの工夫と評価

単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」を育成するには、ワークシートの工夫が必要である。単元を通して1枚のワークシート（以下、「単元プリント」）にまとめることで、生徒が学びを振り返って自己調整をしやすくなるだけでなく、授業者も生徒の粘り強く取り組む姿勢や予想を補足、修正しながら調整して学習する様子を見取って評価することができる。

単元の導入として、単元の「問い」（単元を貫く問い）に興味をもたせる工夫が必要である。「自己調整学習」でも、学習の初期（予見）段階で目標を設定したり、興味や関心をもたせたりして学習者の動機付けを高めておくことは、その後の学習に大きな影響を与えられている。

「北海道地方」の単元の「問い」として、「なぜ北海道は魅力度ランキング1位なのか？」を設定した（図1-①）。民間の研究所が毎年行っている地域ブランド調査で、北海道は15年間連続で1位を獲得している*。単元の初めに、生徒に都道府県の魅力度ランキングを予想させる。京都府と予想する意見が多く、北海道が15年連続で1位という結果に驚きと興味をもつ生徒が多い。生徒の興味関心が高まったところで、学習課題を提示して、予想とその理由を「単元プリント」に記述させる。予想の理由を書かせる際に、これまでの学習で学んだことや生活経

*株式会社ブランド総合研究所 地域ブランド調査2023 <https://news.tiiki.jp/articles/4854> (2024年9月閲覧)

単元プリント		
単元名 北海道地方		
年 組 番 名 前		
① 単元の「問い」 なぜ北海道は魅力度ランキング1位なのか？		
予想	予想の理由 (これまでの学習したことや生活の中で経験したことから考えよう)	◎ ○ △
② 時 タイトル 予想の補足・修正など(なぜ魅力度ランキング1位なのか?)		
1	自然環境	補修 【自然環境の視点から】
2	人々の生活	補修 【生活の視点から】
3	稲作の変化	補修 【稲作の視点から】
4	北海道の産業	補修 【産業の視点から】
5	観光業の発展	補修 【観光の視点から】
◎ ○ △		
単元の「問い」 なぜ北海道は魅力度ランキング1位なのか？		
単元のまとめとして、単元の「問い」に1文で答えましょう。		
まとめの解説を書きましょう。 ⇒複数の視点(自然環境・生活・稲作・産業・観光など)を関連付けて書くことと評価が高い。		
単元のまとめ【思考・判断・表現】 A B ⁺ B ⁻ C		
③ 単元の「予想」と「まとめ」を比べて、どのような違いや深まりがありましたか。自分なりに分析してみましょう。		
学びの自己分析【主体的に学習に取り組む態度/調整力】 A B ⁺ B ⁻ C		
④ 次の単元「東北地方」を学習する上で役立ちそうな「学んだこと」や「学び方」をまとめましょう。		
学びの継続、単元プリント全体の取り組み【主体的に学習に取り組む態度/ねばり強さ】 A B ⁺ B ⁻ C		
⑤ この単元では、意欲をもって学び続けることができましたか。(当てはまるものに○) とてもできた ・ できた ・ あまりできなかった ・ できなかった		
自己評価 この単元では、予想を補足・修正するなど自分で調整しながら学ぶことができましたか。 とてもできた ・ できた ・ あまりできなかった ・ できなかった		

図1 北海道地方の「単元プリント」(一部略)

験に基づいて考えるように指導する。これは、根拠をもって自分なりの予想を考えさせるためである。

予想を記述した段階で一度「単元プリント」を回収する。「単元プリント」にある「◎○△」は学習改善につなげる評価(形成的評価)であり、「A~C」は評定に用いる評価(総括的評価)である。予想を書く段階では形成的評価を行い、生徒に返却する。評価基準は以下の通りである。

- ◎: これまでの学習や生活経験に基づいて具体的に予想の理由を書いている。
- : これまでの学習や生活経験に基づいて予想の理由を書いている。
- △: 記述がなかったり、「何となく」のような記述だったりする。

返却の際に、「◎」の評価を得た記述内容を全体で共有するなど、どのような考え方で予想をつくるとよいのかの見本を示したい。

「北海道地方」の単元は全6時間(5時間の授業と1時間のまとめ)である。毎時間の終わりに、「単元プリント」に自分の予想の補足や修正を記述させることで、自分の考えを振り返ってメタ認知を行い、単元を通して自分の予

想を調整するという学習サイクルをつくる(図1-②)。また、毎時間違った視点から、北海道が魅力度ランキング1位の理由を追究することで、多面的・多角的な見方・考え方を働かせる。

単元の途中(遂行)段階での評価は学習改善につなげる評価(形成的評価)であり、「単元プリント」の「◎○△」で行う。ここでの評価基準は以下の通りである。

- ◎: 授業内容を正確に理解したうえで自分の予想に対して具体的に補足、修正をしている。
- : 授業内容を予想と関係づけながらまとめている。
- △: 授業内容の理解が不十分であったり、予想と結び付かない記述だったりする。

「単元プリント」内の「◎○△」の横のスペースはコメントを書くためのものである。印をつけるだけでなく一人一人にコメントを書くと、より生徒の学習改善につながる(コメントは時間的に難しければ書かなくてもよい)。ここでも返却の際に、「◎」の評価を得た記述内容を全体で共有するなど、どのような考え方で授業の振り返りを記述すればよいのかの見本を示したい。

毎時間クラス全員の「単元プリント」を回収して評価することは難しいため、「北海道地方」の単元では2時間目の終わりにクラスの半分のプリントを回収して評価（形成的評価）し、4時間目の終わりに残り半分のプリントを回収し評価して返却した。

単元の終わり（6時間目）に、単元のまとめとして「単元プリント」を完成させる。毎時間の振り返りを読み直して、単元の「問い」に対する自分なりの答えをまとめる。単元のまとめは、「思考・判断・表現」の総括的評価を行う。「単元プリント」の「AB⁺BB⁻C」に印をつける。3段階だとB評価に幅があって評価が難しいため、5段階で評価している。

「自己調整学習」の内省（自己評価を行う）段階では、単元初めの予想と単元のまとめを比較し、その違いや深まりを自己分析するというメタ認知を行う（図1-③）。これにより、自分の考えが単元を通してどのように調整されたのかを自覚することができる。「主体的に学習に取り組む態度」の「調整力」で総括的評価を行う。評価基準は以下の通りである。

A：違いや深まりを自分なりの視点をもって具体的に分析している。
B：違いや深まりを比較しながら記述している。
C：比較した記述がない。
※「B」評価でも「A」に近い場合は「B⁺」、「C」に近い場合は「B⁻」にしている。

また内省段階では継続的な学びのサイクルをつくるために、次の学び（単元）とのつながりについて考えさせる。次の単元を学習するうえで役立つような「学んだこと」や「学び方」をまとめさせ、単元プリント全体の取り組みも見ながら「主体的に学習に取り組む態度」の「粘り強さ」で総括的評価を行う（図1-④）。評価基準は以下の通りである。

A：単元を通して学び続けたことが「単元プリント」から見取ることができ、次の単元に役立つようなことを自分なりの視点をもって具体的に記述している。
B：「単元プリント」から学び続けたことを読み取ることができ、次の単元で役立つようなことを記述している。

C：「単元プリント」の記述がない。または、次の単元とのつながりの記述がない。

※「B」評価でも「A」に近い場合は「B⁺」、「C」に近い場合は「B⁻」にしている。

最後に、「意欲をもって学び続けることができたか」（粘り強さ）と「自分で調整しながら学ぶことができたか」（調整力）を自己評価させる（図1-⑤）。自己評価は、評定に用いる評価にはしないことを事前に生徒に伝える。時間に余裕があれば、周囲の生徒と完成したプリントを読み合い、よいところをまねさせたい。

このように、単元を通して「単元プリント」を記述させることで、生徒の「主体的に学習に取り組む態度」を育成して評価も行った。

3 「主体的に学習に取り組む態度」を育成する授業構成の工夫

「主体的に学習に取り組む態度」を育成するには、授業の中でペア学習やグループ学習など他者と関わりながら学ぶことが有効である。教育心理学の研究では、「自己調整学習」は他者との関係性や相互作用の影響を受けることが知られている。「自己調整学習」では、他者の話を聞いたり話し合ったりする時間を設けることの重要性が挙げられており、友人と議論を行っている学習者ほど、「自己調整学習」能力が高いことが明らかになっている。

ペアまたはグループで協働学習を行うことで、生徒は自分が調べた情報にほかの人から得た情報、ペアやグループで話し合った情報を加え、自分の考えを修正・補足して獲得する知識の調整を行う。ワークシートに記述することで、生徒は自分の考えや獲得した知識を整理するとともに、授業者は生徒の自己調整の過程を見取ることができる。

「北海道地方」の単元では、第4時の「北海道の産業」で、地図帳・教科書や資料集を使って北海道地方の「畑作（農業）」「酪農」「漁業」を分担して調べ、グループで情報を出した後で、「工業」について話し合いながら資料を読み取る学習を行った。生徒が協働して取り組む3つの課題を設定した。

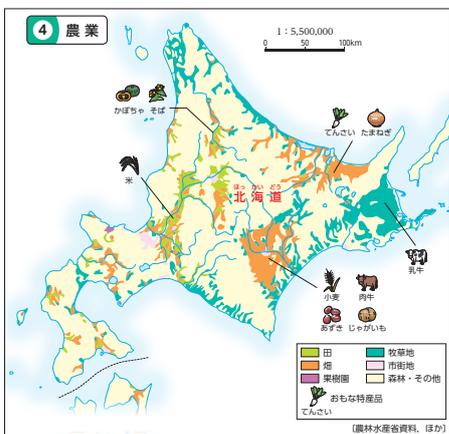


図2 『中学校社会科地図』 p.143 「④農業」



図3 『中学校社会科地図』 p.143 「⑤工業・交通」

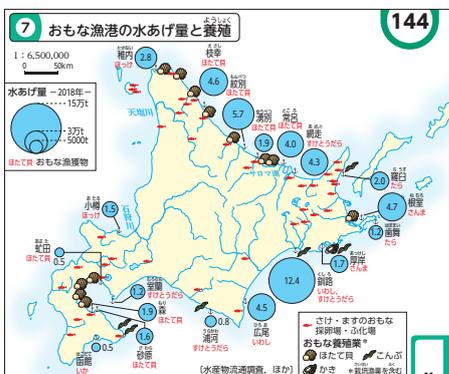


図4 『中学校社会科地図』 p.144 「⑦おもな漁港の水あげ量と養殖」

- Q1 全国平均と比べて北海道の工業出荷額にはどのような特徴があるのか？(地図帳p.143⑤②・図3)
- Q2 食品の工場はどのようなところに分布しているのか？その理由は？(地図帳p.143④・図2、⑤・図3、p.144⑦・図4、p.158④)
- Q3 「北海道の産業」の学習を振り返って、Q1の理由をまとめましょう。

生徒は、グループで話し合いながらQ1～3の答えをワークシートに記述し、班ごとに意見を発表して共有した。

Q2は、各自で調べた「畑作（農業）」「酪農」「漁業」の知識を基に、読み取れることを話し合うことになる。畑作、酪農、漁業が盛んな地域の近くに食品加工の工場がつけられていることに気づき、その理由について追究させる。「北海道の食品加工工場では、どのようなものが生産されているのか」という補助発問をして、調べさせるのもよい。

Q3は、自分で調べたり他者から教わったりした「畑作（農業）」「酪農」「漁業」についての知識とグループの話し合いで学んだ「工業」の知識を基に、北海道の工業出荷額で「食品」の割合が多い理由をまとめる。

第4時の最後には、「単元プリント」に「なぜ北海道は魅力度ランキング1位なのか？」について産業の視点から予想の補足や修正を行いながら、授業の振り返りを記述する。

4 おわりに

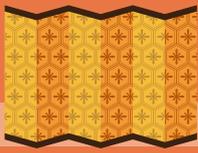
本稿では、地理的分野で実践した「主体的に学習に取り組む態度」の育成に着目した単元づくりとその評価方法を取り上げた。この単元で作成したワークシートはまだ試作段階ではあるが、ほかの地理的分野の単元や歴史的分野、公民的分野でも応用することができると考える。

「主体的に学習に取り組む態度」を短期的に身につけさせることは難しい。社会科の三分野を通して長期的に継続して訓練していく必要性を感じている。また、「主体的に学習に取り組む態度」を発達段階に合わせてどのように発展、深化させていくのかを今後追究していきたい。

〈参考文献〉

- ・福谷泰斗、皆川直凡「自己調整学習の理論に基づく振り返り活動が中学生の学習動機づけに与える影響—ポートフォリオを導入した社会科学学習プログラムの開発とその教育効果の検証—」、『応用教育心理学研究』第38巻第2号、2022年
- ・梅津正美編著『「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価完全ガイドブック 中学校社会』、明治図書、2022年

帝国書院のWebサイトに、「単元プリント」を掲載いたします。



歴史

世界地図を活用し、大航海時代と日本のつながりを認識する —ヨーロッパ人は近世の日本にどのような影響を与えたのか—

新潟県 上越教育大学附属中学校 教諭 仙田 健一

1 はじめに

グローバル化が進展する社会の中で、歴史的分野の学習でもわが国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの充実が求められている。特に戦国時代から江戸時代の始まりにかけて、日本を巡る世界の状況は大きな転換点にあった。それはヨーロッパ諸国のアジア進出の始まりだからである。この内容に関して、『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』では、以下のように示されている（波線部著者注）。

（ア）世界の動きと統一事業

ヨーロッパ人の来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつけられたことを理解すること。

「ヨーロッパ人の来航の背景」とは、宗教改革が起こり、イエズス会が布教を海外に求めたことやイスラム商人の活動が新航路の開拓につながっていることである。また、「その影響」とは、鉄砲やキリスト教などが伝来し、南蛮貿易が盛んになり、日本の近世の社会に大きな影響を与えたことである。このようにわが国の歴史の背景にある世界の歴史を理解することが近世の日本の歴史の大きな流れを追究するために必要であることが分かる。一方、これまでの学習では、世界と日本の歴史のつながりが認識しづらいという課題が実践の多くで見られる。

そこで、以下のような手だてを講ずることで、上記の課題に迫ることとした。

2 課題に迫るための手だて

（1）世界地図の活用

歴史の授業であっても、特に世界の歴史に関わる単元では、地図の活用を促したい。それは、世界と日本のつながりを地図上で認識することができるからである。

（2）指導と評価の一体化

学習前に以下のような単元のまとめの評価基準を生徒と共有することで、歴史的な見方・考え方（時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながり）を働かせながら学びを深めることができると考えられる。C評価の生徒については、ほかの生徒のまとめを共有し、B評価以上になるように促したい。

評価	評価基準（思考・判断・表現）
A	ヨーロッパ人の来航の背景について、 <u>図版（地図や図）を活用して説明でき、その影響を日本と世界の関係に着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</u>
B	ヨーロッパ人の来航の背景とその影響を多面的・多角的に考察し、表現している。
C	ヨーロッパ人の来航の背景とその影響を多面的もしくは多角的に考察し、表現している。 <u>※一面的なとらえとなっている。</u>

3 単元目標と学習計画について

本稿は、令和3年度版『社会科 中学生の歴史』（以下、教科書）p.94～101の学習内容と令和3年度版『中学校社会科地図』（以下、地図帳）を基に学習と評価の計画を作成したものである。

(1) 単元名

歴史的分野 大航海によって結び付く世界
～ヨーロッパ人は近世の日本にどのような影響を与えたのか～

(2) 単元目標

- ・ヨーロッパ人の来航の背景とその影響を基に、近世の日本の社会の基礎がつけられたことを理解する（知識・技能）。
- ・ヨーロッパ人の来航の背景とその影響を世界の結び付きに関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現する（思考・判断・表現）。
- ・ヨーロッパ人の来航の背景とその影響に関する課題をよりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとする態度を養う（主体的に学習に取り組む態度）。

(3) 学習計画（5時間）

時	主な学習活動
1	室町・戦国時代のヨーロッパは？ ・ヨーロッパの絵画を時代が古い順に並び替える。 ・なぜ、ルネサンスが起こったのかをヨーロッパの地図を活用し、説明する。
2	ルターはなぜ、宗教改革を行ったのか？ ・免罪符販売の画像を見て、免罪符を買うか、買わないかを考える。 ・宗教改革が日本にどのような影響を与えたかを考える。
3	ヨーロッパ人は何を目標としたのか？ ・西インド諸島を地図帳の索引を活用して探す。 ・15世紀のヨーロッパにおいてこしょう、ハチミツ、チーズのどれが金と同じように高価なものであるといわれてきたのかを答える。 ・ヨーロッパ人たちがどのような航路でインドを目指したのかを白地図に記入する。
4	コロンブスは英雄か、侵略者か？ ・コロンブスが航海に出かけるために必要だったものを考える。 ・コロンブスは英雄か、侵略者かを考える。 ・スペイン人と先住民の立場で考える。
5	なぜ、ザビエルは日本にやってきたのか？ ・鉄砲は戦い方や城をどのように変えたのかを考える。 ・『南蛮屏風』を読み取り、もたらされたものを考える。 ・ヨーロッパ人は近世の日本にどのような影響を与えたのかを考える。

4 学習のポイント

学習がどのように展開されるかについて、生徒主語での実際の活動を以下で説明する。

(1) 1時間目

導入では、教科書p.95の古代ローマの三美神、中世の三美神、ルネサンスのころの三美神の画像を提示し、古い順にグループで並び替える。古代ローマとルネサンスのころの三美神が似ていることをとらえる。

次に、ルネサンスの説明がされている教科書p.94～95の「人間の個性や自由を表現しようとした古代ギリシャ・ローマの文化を理想とするルネサンス（文芸復興）とよばれる新しい風潮が生まれました」を読む。ワークシートを活用し、ミケランジェロやレオナルド＝ダ＝ビンチ、科学技術、天文学、地理学の発達を確認する。また、ガリレオ＝ガリレイがカトリック教会から異端とされ、自説を放棄させられたことを確認する。

展開では、教員からの問い「ルネサンスはどこで盛んになったのか」に答えられる記述を教科書から探す。さらに「なぜ、イタリアなのか」を教科書p.98～99の「8 16世紀初めごろの世界」の地図を参考に考える。十字軍の遠征によるイスラム文化およびイスラム商人との交流をとらえる。

まとめでは、「なぜ、イタリアでルネサンスは起こったのか」について、地図を活用して振り返る。

(2) 2時間目

導入では、教科書p.95の「8 免罪符を販売する様子」を見せ、何をしているところかを考える。罪の償い（罰）が軽くなる札を買うか買わないかを生徒自身に選択させる。その際に現代社会でもお守りを購入したり、占いを信じたりすることがあることと比較しながら考える。

次に「なぜ、カトリック教会は免罪符を販売したのか」を考える。教科書p.95から「十字軍の失敗」や「ローマの大聖堂修築の資金」と

いったことを読み取る。

展開では、ドイツのルターやスイスのカルバンといった人物がカトリック教会に抗議し、宗教改革を始めたことを確認する。「なぜ、ルターやカルバンは権威を持つカトリック教会に抵抗することができたのか」をグループで考える。その際に、地図帳p.50のヨーロッパの宗教分布図やグーテンベルクの活版印刷の画像を参考にし、これまでの権威のある人に聞かなければ分からなかった聖書を市民が読むことができるようになったこと、ルターやカルバンを支援する諸侯や知識人などがいたことをとらえる。

次に宗教改革はどのような影響を日本に与えたのかを考える。その際に教科書p.95を参考にフランシスコ=ザビエルの布教活動との関連をとらえる。

まとめでは、「なぜ、ルターは宗教改革を行なったのか、その影響は何か」を振り返る。

(3) 3時間目

導入では、西インド諸島を地図帳の索引を活用して探す。「なぜ、西インド諸島と呼ばれているのか」を考える。

次に15世紀のヨーロッパにおいて、こしょう、ハチミツ、チーズの中で金と同じように高価であったといわれていたものは何かを考える。教科書p.96から肉の保存などのために香辛料(こしょう)が必要だったことを確認する。

展開では、ロイロノートで配信された白地図に着色する以下のような活動に取り組む(図1)。作成した白地図を基に「なぜ、新航路を発見しようと思ったのか」をグループで考える。

- ①白地図の地中海に青色を塗る。
※イスラム勢力やイタリア商人が支配する地中海。
- ②イスラム教の国(オスマン帝国)に赤色を塗る。

この時代、ヨーロッパの商人たちは、地中海とオスマン帝国の支配地を通過することができないことを確認する。次に、新航路の開拓を目指したコロンブス、バスコ=ダ=ガマ、マゼランのルートを教科書p.98~99の「8 16世紀初めごろの世界」の図を参考にして白地図に記入する(図2)。教科書のこの地図中の日本にも注



図1 生徒が作成した16世紀初めごろのヨーロッパとアジアの交易を示した地図の例

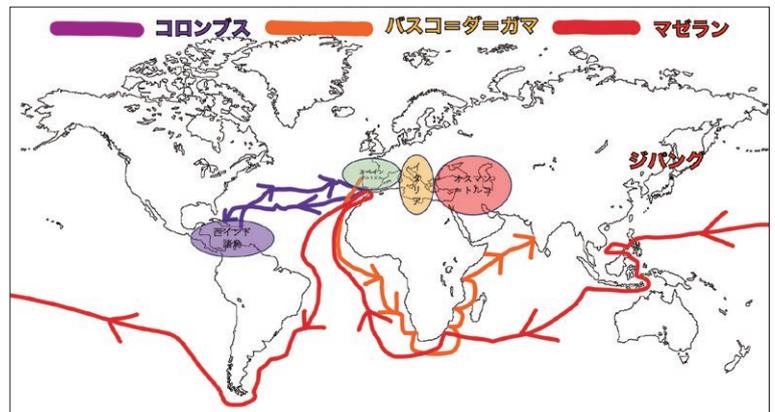


図2 大航海時代の航海者のルートを記入した地図の例

表 大航海時代の出発時と帰国時の様子

航海者	出発時	帰国時
コロンブス (1492年)	3隻 約90名 (1492年8月)	1隻 約40名 (1493年3月)
バスコ=ダ=ガマ (1497~98年)	4隻 170名 (1497年7月)	2隻 44名 (1499年7月)
マゼラン	5隻 265名*1 (1519年9月)	1隻 18名*2 (1522年9月)

※1 諸説あり。
※2 後に別の船で帰国した者を含めると35名ともいわれる。
出典：大江一道・山崎利男『物語 世界史への旅』山川出版社 2020年、大野拓司『マゼラン船団 世界一周500年目の真実 大航海時代とアジア』作品社 2023年 ほか

目させ、イラストや琉球王国、アイヌ文化圏についても触れておくこと時以降の助けになるだろう。

どのくらいの人数が航海に出発し、帰国したのかを考える。そして、表を確認する。

まとめでは、大航海時代に関してどのような



公民

私たちの生活と経済 消費者と経済 ——一人暮らしにかかるお金を考えよう——

神奈川県 横浜市立金沢中学校 教諭 寺地 創太郎

1 はじめに

本稿の目的は『社会科 中学生の公民』（以下、教科書）p.125～126の「一人暮らしにかかるお金を考えよう～希少性から消費について考える～」に関する授業展開や発問例を提案することである。そのために、（1）授業者の問題意識（2）生徒の実態（3）授業展開や発問例の提案（4）評価の一例の流れで示す。

2 授業者の問題意識

今回の授業提案では、特に「家計」に注目したい。コロナ禍以降の経済状況のように、国の景気や経済状況を論じる際、企業や政府の動向に、よく注目が集まる。その一方で、家計は消費行動の面において、国の経済で重要な地位を占めるにも関わらず、さほど注目が集まらないように感じる。

筆者の授業実践を振り返ると、無意識のうち、企業・政府の内容に力点を置いていたように思う。今回は意識的に、生徒にとって身近な家計を学習の中心に据え直した授業展開にすることによって、生徒が経済の内容を自分事としてとらえる契機となる授業を目指したい。

3 生徒の実態

本校生徒の実態をとらえるため、生徒250余

名にアンケート調査を実施した。なお、次の質問1～4はすべて自由記述による回答（複数回答可）とした。

質問1「一人暮らしをするならば、どんな場所に住みたいですか？」

質問2「一人暮らしをする場所は、どんな基準（理由）で選びますか？」

質問3「一人暮らしには、どんな費用がかかると思いますか？」

質問4「あなたの給料は19万円です。どの費用に、いくら使いますか？」

まず、質問1・2の回答をもとに、生徒の実態として以下の3点（①～③）を指摘したい。

①生徒の一人暮らしをする場所の選択基準は「A交通アクセスのよさ（駅への近さ等）」「B住環境のよさ（治安、防災、自然等）」「C買い物ができる場所への近さ」「D家賃や物価の安さ」「E職場への近さ」の5つに大別される。

②生徒全体のうち選択基準A～Eを挙げた割合は、次の表1の通り。

表1 生徒が選んだ一人暮らしの場所の選択基準の割合

A交通アクセスのよさ	62.1 %
B住環境のよさ	53.2 %
C買い物ができる場所への近さ	34.8 %
D家賃や物価の安さ	34.3 %
E職場への近さ	11.4 %

③生徒の記述は、「駅に近い、治安がよい」のような個別的羅列的な記述がほとんどだったが、「希少性」を踏まえた記述（例えば、「横浜駅の近くだと、お金が多くかかってしまうから、横

浜駅から少し遠い場所」もわずかに見られた。

次に、質問3・4の回答をもとに、生徒の実態として、以下の4点(④~⑦)を指摘したい。

④生徒全体のうち、家計の各支出項目を挙げた割合は、次の表2の通り。なお、表2の支出項目は、教科書p.117の資料を参考に作成した。

表2 家計の支出項目についてそれぞれを挙げた生徒の割合

住居費(光熱・水道・家具等含む)	96.5 %
食料費	90.5 %
交通・通信費	37.3 %
教養・娯楽費	23.8 %
被服費	19.4 %
保健医療費	2.9 %
教育費	0.0 %
交際費	0.0 %
その他の消費支出	21.9 %
以下、非消費支出	
預貯金・保険・証券等	24.9 %
税金・社会保険料等	20.3 %
ローン返済(家)	2.4 %

⑤19万円の使い道は、さまざまな金額設定が見られ、生徒によって何を重視するのか異なる。

⑥「手取りが19万円として…」「税金や社会保険料に〇万円」のような、控除額に触れた記述も見られた。

⑦所得をすべて使い切る(貯金をしない)と回答をした生徒は、75.1%に及んだ。

4 生徒の実態に関する考察

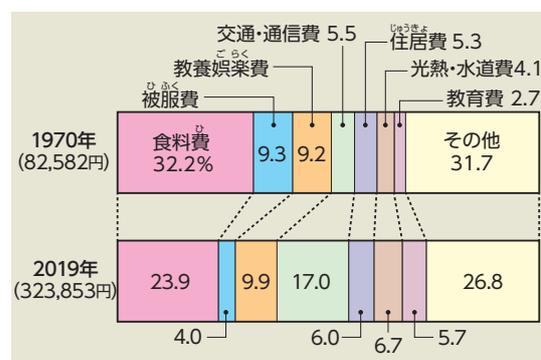
実態①・②の一人暮らしの場所の選択基準に関して、「交通アクセスのよさ」が最も多いのは、生徒の生活経験が大きく影響していると考えられる。横浜に住む生徒は、日常的に公共交通機関を利用する機会が多く、自宅から最寄り駅までの距離は切実性のある基準なのだろう。一方で、「職場への近さ」が最も少ないのは、通勤した経験がなく、具体的にイメージできないこ

とが関係していると考えられる。

実態③に関して、生徒は自身の選択基準を挙げることはできるが、それらを関連させたり、優先順位をつけて選択したりすることはまだ難しいようである。多くの家計が、使えるお金の限度があるため、希少性を踏まえた消費行動について考える授業の必要性が明らかとなった。

実態④・⑤に関して、中学生にとっても、生活に欠かせない「住と食」に関する支出項目で多く挙げられ、金額も多かった。一方、保健医療費、教育費、交際費を挙げる生徒は、ほぼいない。これは横浜市では中学生まで実質医療費が無償であることや、自身のスキルアップや冠婚葬祭の出費の経験のなさが理由と考えられる。また、交通・通信費(特にスマホ代)が、被服費を大きく上回っていることにも筆者は驚いた。中には、スマホ代は挙げているが、被服費を挙げない生徒も一定数いた。生徒の支出の優先順位は「衣類よりもスマホ」なのである。この消費者感覚は、筆者にとってなじみないものだが、図1のように、交通・通信費の割合が増えている現状が反映された回答だと考えられる。

実態⑥に関して、非消費支出(特に、税金や社会保険料、生命保険等)を回答した生徒がいたことは、筆者にとって想定外だった。複数の生徒に追加のインタビューを行った結果、小学校における税の学習や、保護者との会話からそ



↑ 6家計に占める支出の割合(家計調査 令和元年, ほか)

図1 教科書p.118「⑥家計に占める支出の割合」

のような回答を行ったとのことだった。小学校での既習内容や各家庭での保護者との対話が、生徒の認識に影響を与えていると考えられる。

最後に、実態⑦に関して、貯金に言及しなかった生徒が75.1%いたことに対して、筆者は生徒に貯蓄の考え方が根づいていない、あるいは、計画性のある消費行動を想定できていない実態があると考えた。しかし、複数の生徒に追加のインタビューを行った結果、「各支出項目の詳細を調べ、計算したら、お金が余らなかった」「一人暮らしには思った以上のお金がかかる」との回答が得られた。貯蓄を想定していないだけではなく、物価高騰の影響等で、家計の経済状況の厳しさが叫ばれる昨今の状況も反映されているのではないとも考えられる。

5 授業のねらい

これまでに述べた生徒の実態を踏まえて、授業のねらいを次のように設定した。

- (1) 家計の消費生活について、希少性の見方・考え方を踏まえて、さまざまな選択基準があることを理解している。【知識・技能】
- (2) 他者との対話を通じて、希少性の見方・考え方を踏まえながら、家計の消費生活において選択基準を多面的・多角的に考察し、どの選択基準を重視するか自分なりの考え方を表現している。【思考・判断・表現】
- (3) 身近な家計の消費生活について、そこで見られる課題や新たな疑問の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

6 授業展開と発問例

(1) 導入～希少性について理解を深める～

導入で『あなたは給料が19万円の社会人で

す。一人暮らしをする場所は、何を重視して選びますか?』『19万円の給料を何のために、いくら使いますか?』という発問を行う。生徒はこの発問に対して、ワークシート（本誌p. 27のQRコードのリンク先参照）の「はじめの考え」に記入する。続いて、希少性について理解を深めるために、図2を生徒に示し、『一人暮らしをするならばどこに住みたいですか?』と発問し、理由と共に記述させる。

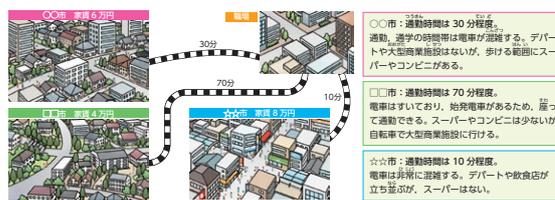


図2 教科書p.125「一人暮らしをするならばどこに住む?～状況の確認～」

生徒の回答としては、「職場から近く、買い物しやすい☆☆市」等の回答が予想される。事前の調査結果（本稿表1）も示しつつ、職場の近さや買い物のしやすさ等の基準をすべて満たすような場所は、希少性が高まり、家賃も高くなる傾向があることを理解させる。そして、さまざまな選択基準をもった生徒同士の対話を促し、例えば、「貯金をして、自動車購入を考えているため、通勤時間はかかるが、家賃の安い□□市」のような選択基準もあることを理解させる。

(2) 展開1～給与明細を読む～

次に、19万円の使い道を考える際、本稿表2をもとに「税金・社会保障費」を答えた生徒がいたことを紹介し、給与明細（図3）を示す。

図3の給与明細はあくまでも一例であるが、生徒は興味をもって読むことが予想される。『給与明細書から読み取れることや、気付いたことはありますか?』と発問し、「基本給と実際に得る金額が違う」「基本給以外にも各種手当がある」「社会保険料、所得税、共済会費等の控除額もある」等の意見を引き出したい。この内

その2 給与明細書を読む

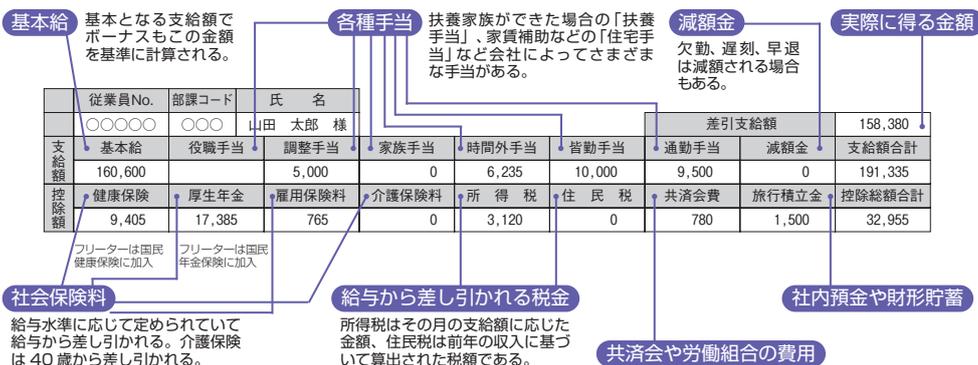


図3 金融経済教育推進機構編「これであなたもひとり立ち 自立のためのWORKBOOK」p.14より引用

内容は、今後の企業や政府の学習につながるポイントになると考える。所得に関する理解とともに、非消費支出に関する理解も深めたい。

(3) 展開2～さまざまな選択基準に触れる～

次に『給料19万円のうち、税金や社会保険料等を納め、手元に16万円残りました。図4を参考に16万円を何のために、いくら使いますか?』と発問し、ワークシートに記入させる。その後、何を重視した金額設定にしたのか意見交換をさせ、さまざまな選択基準に触れさせる。



図4 教科書p.126「生活費にいくらかけるか考えよう」

(4) 終結～自分なりの選択基準を表現する～

学習のまとめとして、『この先も一人暮らしを続ける場合、給料を何のために、また、どのように使いますか?』というレポートの作成に取り組み、授業前後の変容をみたい。

7 評価の一例

評価については、ワークシートの記述を主に評定に用いる評価資料としたい。先述の「5.授業のねらい」に沿って、「知識・技能」は、例えば「さまざまな選択基準を満たす場所の希少性は高くなり、家賃も高くなる」「はじめの考えにはなかった〇〇費の重要性に気付いた」等の記述が見られるか、「思考・判断・表現」は、「限られた所得の中で、～という目的のために〇〇費を優先し、□□費を抑える必要がある」等の記述が見られるか、「主体的に学習に取り組む態度」は、他の2観点の取組状況や「控除額が何に使われたか調べてみたい」等の新たな疑問を見出しているかどうか、という評価基準にした。

8 おわりに

本授業を実践した際、どんな対話が生まれ、生徒の考えが変容するか。経済を自分事としてとらえた生徒が企業や政府の学習をどう学んでいくかは、今後検証していきたい。

帝国書院のWebサイトに、ワークシートを掲載いたします。



描かれた農村風景

京都国立博物館 保存修理指導室長 福士 雄也

農民の暮らし

江戸時代、総人口の八割を超えていたとされる農民の暮らし振りを伝える古文書は、検地帳や御触書、宗門改帳など数多く残されている。また、当時栽培されていた農作物やその栽培技術などについては宮崎安貞『農業全書』（1697年）に詳しいし、農具のことは大蔵永常『農具便利論』（1822年）が委細を尽くす。あるいは、江戸時代に日本を訪れた外国人が著した書物、例えばケンペル『日本誌』（1727年）やオールコック『大君の都』（1863年）には、彼らが目にした農村のありさまが情感豊かにつづられている。これらの書物には挿図が収録されており、視覚的な情報を補うこともできる。

しかし、よりビジュアルな、江戸時代の農村風景というものに触れたいなら、久隅守景筆『四季耕作図屏風』（六曲一双）に勝る作品はないだろう。

一年の農作業

ここに描かれているのは、江戸時代の農村における稲作の様子である。季節ごとの農作業を、周囲の自然景の移り変わりとともに表現しており、全体を通してほぼ一年が巡る。

季節は、画面に向かって左から右へと進む。ここでは掲出していないが、左隻には、種籾の発芽を促すために水に浸す浸種^{しんしゅ}、代かき^{しろ}、そして田植えという、おむね春から夏にかけての農作業の様子が描かれている。

一方、掲出した右隻の左三分の二ほどを占めるのは秋の稲刈りの作業である。鎌を使って稲を刈り取り、たばねて稲束を作っている。

稲束を馬の背に載せて運んだ先では、脱穀が行われている。この時代にはまだ千歯こきは考案されておらず、脱穀には唐竿が用いられることが多いが、ここでは長い柄の先に横棒をつけたT字型の塊割^{くれわり}のような農具で叩いて脱穀しているようである。

その後方では、箕^みを使い脱穀後の籾に交じった殻や塵を取り除く作業、土臼で籾をすり玄米にする作業、白杵で玄米をついて白米にする作業が行われている。



画面右下に見える、精白された米を詰めて担がれた米俵は、これから蔵に運ばれていくのだろう。遠山は雪を冠しており、季節の推移と再び到来する春を暗示する表現となっている。

重い米俵を運ぶ作業など力仕事は主として男性が行っているが、田植えや脱穀、精米などには女性も一緒になって参加している。また、子どもたちも稲束を馬で運ぶなど、村の農民たちが一丸となって農作業に取り組んでいる様子がよく分かる。

誰が描いたのか？

この作品を描いたのは、久隅守景という画家。当時、画壇の頂点に君臨していた狩野探幽(1602~1674年)の高弟の一人であるにもかかわらず、伝記には不明な点が多く、生没年すら分かっていない。ただ、作品は数多く残されており、田園風俗を主題とした作品に魅力的なものが多い。とりわけ『四季耕作図屏風』には多くの需要があったらしく、現在十件ほどの作例が知られている。

描かれているのはどこの農村なのだろうか。守景は加賀(金沢)に滞在していた時期があり、当地の景観

を描いたという見方もある。ただ、通常は画面の右から左に向かって季節が推移するように描かれるのに対し、本作ではそれが逆になっている。その理由も含め、諸説あるものはっきりしたことは分かっていない。

勸戒画としての耕作図

そもそも、耕作図は単なる牧歌的な風俗画でも、現実の農村の写生画でもない。もともとは、農民の労苦を示し為政者の戒めとするために制作された絵画(勸戒画という)であり、徳による善政を重んじる儒教思想を背景としている。中国で描かれた耕織図(耕作と養蚕・機織りの作業を描いた図)を手本としているため、江戸時代の耕作図には中国風の人物が描かれるのが通例である。

その耕作図を、守景は日本の農村風景として描いた。だからといって勸戒画としての意味を失ったわけではないが、休憩して弁当を使う人々や、車座になって遊ぶ子どもの姿など、農作業と直接には関わらない描写も多い。当時の農村の暮らしを彷彿とさせる、そのいきいきとした人物表現は同時代風俗画としての要素も十分に備えており、そこに本作の独自性と魅力がある。



「四季耕作図屏風」(十七世紀、重要文化財、六曲一双のうち右隻) 〔京都国立博物館所蔵〕

帝国書院ウェブサイトが
パワーアップしました！

Teikoku LABO

学習者向けコンテンツ



↑会員登録は
こちらから



↑Teikoku LABOは
こちらから(会員限定)



“Teikoku LABO”とは…

Teikoku LABOは、“令和の日本型学校教育”を見据えた
学習者向けコンテンツの研究所です。

本サイトでは、現在、研究開発している社会科に特化した
学習者向けコンテンツを公開しています。

“生徒が学習者用端末を活用して主体的に活動する授業スタイル”を
想像しながらコンテンツをご体験ください！

Teikoku LABO学習者向けコンテンツは、下記のバナーから
Teikoku LABOにお進みください。または、左上のQRコード
からご覧ください。



- Teikoku LABOは「学校の先生」限定サイトとなります。
ご利用の際は、事前に帝国書院Webサイトの会員登録を
お願いします。
- 閲覧は、PC・タブレット推奨。

注目！

超教科書の 学習者向け新機能

新機能の「学びコネクト」「まとめも」「超紙面」を活用して
デジタル教科書内ワンストップで地図帳・地理・歴史・公民の各分野の学びを連携させ、生徒の“主体的・対話的で深い学び”を実現することができます。



デジタル教科書・教材ビューア

超教科書の学習者向け新機能
デジタル問題集 mana.think@

注目！

主題図コンテンツ

『中学校社会科地図』に収録の
主題図について、「分ける」「
比べる」「重ねる」の三つの
手法を使い、思考力・判断力を
養うツールを研究開発しています。
こちらでは、『楽しく学ぶ小学生の
地図帳』の主題図で体験
ができます。



地図・地理

主題図コンテンツ
写真で発見！世界の気候
レイヤー切り替え
and more…

注目！

タイムトラベル 名探偵！

『社会科 中学生の歴史』に
収録されているタイムトラベルを
3D復元。紙の教科書ではとらえ
きれない時代の特徴を、「名探偵」
になってとらえることができ、
生徒の探究を促します。



歴史

タイムトラベル名探偵！

注目！

ぱんSim

～パン屋さん経営大作戦～

『社会科 中学生の公民』収録「
パン屋を起業しよう」の続編的
位置付けの「ぱんSim～パン屋
さん経営大作戦～」は、パン屋
の経営者を擬似体験するシミュ
レーションゲーム。企業や経営
について楽しく学べ、経済単元
の学習が理解できるものを目
指しています。



公民

ぱんSim～パン屋さん経営大作戦～

※1 (QRコード使用上の注意) QRコードを読み取って表示されたサイトにアクセスした際には、別途通信料がかかる場合があります。リンクは予告なく変更・廃止することがあります。

※2 (本誌掲載の他社商標について)

・QRコードは、株式会社アンソウウェブの商標または登録商標です。

・その他の会社名および製品名・サービス名・ロゴマークは各社の商号、商標または登録商標です。

(イラスト：PIXTA)

中学校社会科のしおり

2024年度後期号 No.59

2024年10月30日発行 ©Teikoku-Shoin Co.,Ltd.2024

発行所 東京都千代田区神田神保町3-29(〒101-0051)

株式会社 帝国書院

発行人 佐藤 清

電話 03-3262-4795(代)

https://www.teikokushoin.co.jp/

アンケートご回答のお願い

より先生方のお役に立てる内容をお届けするため、ぜひアンケートでご意見・ご感想をお寄せください。右のQRコード、または下記からアクセスしてご回答いただけますと幸いです。



〈Googleアンケートフォーム〉

https://forms.gle/RLxsWCiP2Rt4k9bg6

部分サンプル

内容解説資料

教授用資料